

第5学年「体育」学習指導案

授業者 神谷 潤

2月21日（木） 1階体育館 9：00～9：40

1 単元名 ボールゲーム

2 単元について

本単元では、参加者全員がボールゲームを楽しめることを目指している。全ての参加者がボールゲームの魅力を楽しむ、ゲームという遊びにのめり込んでいけるようにしたい。しかし、一人ひとりおもしろさや魅力として感じることは同じとは限らない。それは、自明かもしれないが、一人ひとりが違う人間だからである。集団対集団で行うボールゲームでは、異質な他者が集まり、その成員で決められたルールに則り、競い合うのである。だからこそ、ゲームを行ううえで大切にされるのは、異質な他者との共生である。他のスポーツでもいえることであるが、言語を媒介としなくてもかかわることのできるボールゲームは、まさにグローバルなコミュニケーションツールとして機能するものであり、ゲームするなかで養われる共生の感度は、子どもたちが自由に生きていくために必要なものであるといえよう。

5年生の子どもたちにとってみれば、友達と一緒にゲームして遊ぶ、という感覚に近いのかもしれないが、あえて本単元では、友達に同質性を求めるのではなく、異質さを際立たせた学びをしてほしいと願っている。私とあなたは違うという感覚を、ともにゲームすることで感得し、それを互いに尊重し合う感度を涵養したい。

そのために、本単元では、ともにプレーするチームメイトと自分に目を向ける活動を重視する。具体的には、ある観点に基づいて、ゲームにおける一人ひとりのプレーとチームメイト同士の関係を観察評価する。よく、チームの特徴にあったプレーをするために、それに合わせた一人ひとりの適性をとらえるといった営みになりがちだが、そうではない。ゲームにおいて役割の分業は必要だが、そうになってしまうと、役割が決まってしまった場合に、その人のプレーが限定的になってしまい、ゲームへの参加の仕方が固定化しかねないからである。共生するために、互いの違いをとらえるのであるから、その人の特徴にあった役割でなくても、様々な役割を交換しながらプレーし、そのケアをどうするかに注目するのである。勝つことを最優先にしたゲームでなく、勝敗は競うが、チームの全員が楽しむことを前提にしたうえでゲームするという雰囲気がつくられていき、和やかな時間を子どもたちとともにつくっていったらと考えている。

3 学習指導計画（本時6時間目／全10時間）

- ゲームの競争目的を理解し、どのような攻防が有効か、その大まかな様相をとらえる。
- ゲームにおける役割分業の意味に気づき、様々な役割を経験しながら自分とチームメイトの違いをとらえる。
- 互いの違いを見出し、認め合い、ゲームを楽しむ。

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

ゲームすることと観察評価することを交互に繰り返しながら、自分と他者の違いに気づく。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留 意 点
1 前時までの活動を振り返り、ゲームを行う。 学級を4チームに分け、チームのメンバーがローテーションしてゲームに参加する。	・ゲーム中は、自分とチームメイトの関係を探ること、観察評価の際には、チームメイトの特徴をとらえるようにする。
2 ゲームを振り返り、再度ゲームで確かめる。	・子どもたちが互いの違いについて、または自分のことについて語ったことを整理する。
3 今日の活動を振り返る。	